

# コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年12月18日

香港の第5波で何が起きたか：専門家に聴く

## 【松崎雑感】

香港では、ワクチン接種の遅れと、ワクチンヘジタンシーを広げるSNS経由のフェイク情報とのたたかいが重要であるという事が話された。

また中国本土政府のノーコロナ政策からウイズコロナ政策の転換が、新たな変異株発生を促進するのではないかという懸念も述べられた。

臨床現場のヘルスケアワーカーが、人々に向き合って適切正確な情報を伝える必要性が強調された。

## 香港の第5波で何が起きたか：専門家に聴く

Looi MK. Covid-19: **Gabriel Leung reflects on Hong Kong's devastating fifth wave.** **BMJ**. 2022;379:o2903. Published 2022 Dec 12.  
doi:10.1136/bmj.o2903

中国本土のゼロコロナ政策と国境開放のはざままで、香港は今年コロナパンデミックが荒れ狂った。本誌は専門家に状況を尋ねた

### 【レオン氏略歴】

ガブリエル・レオン氏は2013年から21年まで香港大学の医学部長を務めた。彼は地域医療の専門家で、香港政庁の食料と健康担当次官を務めた。また、WHO協力センターで感染症疫学の主任となり、2010年から14年までアジア太平洋地域保健政策の調査議長を務めた。

レオン氏は、アジア地域の公衆保健分野の指導的専門家で、450篇以上の論文を公表し、多くのジャーナルのエディターをつとめた。世界銀行、アジア開発銀行、中国CDCのアドバイザーでもある。

## (BMJ質問) 香港の新型コロナの現在の状況は？

今年第五波を経験した。これまでで最大の速さで感染者数が増加した。世界のどの地域で見られなかったような激的な感染の波だった。香港は、パンデミックの初期から、必要な数のワクチンを手に入れる条件になったのだが、ワクチン接種率が低く、とりわけ高齢者で特に低かったことが大きな要因と考える。他の国が香港の轍を踏まないように望む。

どのような事態が起こるかはわかっていたし、感染を防ごうと思えば防げた。しかし、われわれは、過去を総括してこれからの方針を見出せる状況にはない。言えるのは、「二度とこの失敗は繰り返してはならない。何が起きたか？市民に言い訳ができるのか？どのような言い訳ができるのか？再度の失敗を防ぐ制度的保障はあるのか？」我々はこれに答えなければならない。

現在香港はゼロコロナどころか、第五波により、既感染者が激増し、ハイブリッド免疫保有者が増え、集団免疫が形成される間際まで来ている。したがって、世界の他の国々と同じように、香港でも、新型コロナが大規模流行感染症から地方的流行疾患となりつつあると考える。つまりウイズコロナのフェーズに入っている。ウイルスの変異が収れんしつつある（一定の方向に変異する）傾向にあることは、手放しでは喜べないが、懸念は若干減ってきた。

世界の人口の5分の1を占める中国本土がいつどのように国境閉鎖を解くかが問題だ。ブラジル、インド、アフリカはウイルスの変異が進行した主要な地域だが、アフリカと中国の人口はほぼ同じだ。（南アフリカでオミクロン株が発生したように、中国が新たな変異株の発生地にならないかが心配だ、という意味だろう：松崎）

中国では大規模な感染の波はまだ起きていない。中国は最終的には国境を開放するだろうが、そのことによって、新型コロナウイルスがさらに変異するだろうか？新型コロナウイルスの変異傾向を見ると、収束変異に突入している。主流株はオミクロン派生株BA5と組み換え変異株となってきた。中国本土政府が、香港の轍を踏まないように、国境開放をうまくやれるかが問題だ。

**高齢者のワクチンヘジタンスは引き続き大きな問題となっているのか？**

今は前ほどではない。現在高齢者の3回目ワクチン接種率は85%と、以前よりもずっと高くなっている。このことが集団免疫が形成されているという裏付けとなっている。なぜ第五波と言う大流行が起きたのか？私は、当局には自らこの問題を解明して市民に説明する義務があると思う。

オーストラリアと東アジア諸国は、西欧よりも、SARSのパンデミックから多くの教訓を学んできたと思うが、コロナパンデミックの教訓は何か？

アジアでは、SARSに続いて、大きなアウトブレイクが起きたことが社会に大きな影響と変化をもたらしていると考ええる。

しかし、新型コロナはまだ収束段階になく、それぞれの地域で、様々な手法で実施されたパンデミック対策の最終評価を行うには時期尚早と考える。

しかし、ワクチンヘジタンスの問題にとどまらず、ざっくり言えば、われわれ医療者が人々に正確で適切な情報を伝え、人々の不安や意見にもっと耳を傾けることができたなら、事態はもっと改善していたと考える。

SNSによるフェイク情報の拡散への対応が重要だ。昔は聴診器で診察していたが、今は超音波装置で、より深い診察ができる。

それと同じように人々の心にしっかり耳を傾けること、精神科医や心理学者が常々実行しているように、人々の気持ちを傾聴することが大事だ。家庭医は、これを日常的にやっているのだ。

世界最大の研究支援ファンドWellcomeの代表に選ばれたときに、あなたは新型コロナパンデミックの急性期を乗り越えた先の未来に期待を持っていると言われたが、今の時点でどのように感じているのか？

今こそパンデミックへの対応を準備すべき時だというのが、この間の教訓だ。

もう一つは、CEPI (the Coalition for Epidemic Preparedness Innovations : 新型コロナワクチン開発に資金を援助した機関 )をWellcomeが支援したのだが、画期的発見研究と橋渡し研究が何よりも人々にとって必要な分野であることが証明されたことだ。

新規研究と橋渡し研究の成果によって、幾百千万の命が救われたのだから（ワクチン開発のことであろう：松崎）。Wellcomeからの資金援助に加えて、他のファンドからの援助を呼び込むことで、大きなプロジェクトが必要とする資金を獲得するうえでWellcomeの役割が一層重要であることが確認された。

科学研究の前進にファンド機関の役割の重要性が確認された事例が、新型コロナパンデミックであったことは悲しむべきことだが。

しかし、エネルギー危機、ナショナリズムの蔓延、地域の対立と分裂などの地政学的な問題があるため、世界のすべての人々の健康を守るための国際的な資金配分が円滑に進むとは思わない。

しかし、かえって、やるべき課題とその理由が明らかになった。取り組みやすいからではなく、必要不可欠だからである。

Wellcomeのような資金援助機関には、向かい風の吹き荒れる時にこそ、その果たすべき役割を適切に果たす役割があるからである。

われわれは、財務省の下請けになるつもりはない。切り捨てられた事業のしりぬぐいをするのが仕事ではない。逆風に抗して進もうとしている人々の野心と願望を実現するビジョンを提供することこそがわれわれの役割である。

**健康について、世界的懸念事項は？**

率直に言うと、「グローバリゼーション」だ。

分断とグローバリゼーションの蔓延している時代に世界の人々の健康をどのように守れるのか？ どうしたらよいのか？ 私には、それらが世界の人々の健康に対する最大の基本的脅威だと思える。

私は特効薬を持っていない。

しかし、グローバリゼーションは今吹き荒れている逆風を起こしている張本人である。

それぞれの組織や機関が何をやるべきかは、今や明らかになった。

学术界であろうと、製薬企業であろうと、民間組織であろうと、資金援助機関であろうと、政府であろうと、これらすべてを糾合して対策を進めるにはどうすればよいかを話し合おうではないか。